

つた。(田中)

正木記念館開館 前東京美術學校長正木直彦氏多年の功績を記念する目的を以て、主として同校關係者の發起により廣く寄附金の醸出を募り、豫て東京美術學校内に建設中であつた正木記念館は、今夏竣工、去る十一月一日開館式を舉行した。建物は鐵筋コンクリート造二階建、白壁を主とした日本城廓風の構造で階上の内部を疊敷としてゐる。建坪四十二坪、延坪八十四坪で、陳列竝に集會用に充てられる筈、設計及監督は同校講師金澤庸治氏の手に成つたものである。

開館式に際しては同館建設會實行委員長和田英作氏より正木直彦氏に之を贈り、正木氏より文部大臣松田源治氏に對し之を國家に獻納する旨の挨拶があつて、永く東京美術學校に於て使用されることゝなつた。又此の機會に特別展觀として正木氏蒐集の書畫工藝品を同日より十日間館内に陳列公開された。

因に同館内庭の一隅には沼田一雅氏の作になる正木氏の陶製等身大の壽像が近く置かれる筈である。(青山)

鎌倉國寶館繪卷特別陳列 鎌倉國寶館は十一月一日より七日迄、左記の鎌倉古寺所藏の繪卷を集めて展觀を催した。

當麻曼陀羅緣起	二卷	光明寺藏
淨土五祖繪傳	一卷	同
賴光阿彌陀緣起	二卷	光觸寺藏
長谷寺緣起	二卷	長谷寺藏

右の内、長谷寺緣起(弘治三年の奥書あり)を除けば何れも囑目の機會多く極めて親しき繪卷であるが、斯く一堂に集めて同時に觀覽に供されたことは研究者にとつて亦新しき喜びであつた。就中、長卷の長谷寺緣起の他は何れも全卷を展いて陳列せられた當局の心遣ひを感謝したい。(梅津)

本阿彌光悅展覽會 十一月一日より同月十五日まで恩賜京都博物館に於て上記の展覽が催された。遺墨四十九點、尺牘十三點、遺作品二十九點、參考品十

四點其の他光甫、日允、素庵等の遺品十數點等、通じて百二十點許が出陳された。遺墨のうち下繪を除いて繪畫として數ふべきは

和歌散書月秋草圖	八曲小屏	一隻	帝室博物館藏	
白兔秋草圖扇面	一幅	一幅	島山一清氏藏	
竹	圖	六曲屏	一雙	村山長舉氏藏

の三點である。是等の畫蹟が何れも容易に光悅其の人の跡と考へ得ないことは、既に定説のある所で今更めて云ふべくもないが、其の他多數の書蹟に至つても、是れこそ紛ふ方なき光悅として品鑑し得るものは寥々として僅に本法寺の法華題目抄、妙蓮寺の立正安國論等を除けば、漸く大原孫三郎氏藏蓮花下繪歌卷斷片がそれかと思はれる程であつた。最初自分が同觀の某々に私語して光悅派展覽會と云つたのも、また自分の極端な狹量のみではなかつたであらう。吾々の狹量な見地からすれば最も評判のよかつた長谷川次郎兵衛氏藏柳樹下繪歌卷すら、あの殊更に肥瘦の甚だしい、稍寒むげな書體には、光悅を肯ふことは出来ない。たゞ會期半に至つて團家、益田家の定評ある名品が出品されたが、是れを見るに及んで自分は思はずもはたと膝を打つた。今に初めぬことながら、これこそ正しく光悅大人の跡だ。其の豊かに、暖かに、而も默々として微動だもせぬ風格は、遺作品二十九點中、燦として輝く五六の茶盃の溫藉重厚な韻致とびつたりと相合ふもので、こゝにこそ遺憾なく大人の風貌を忍ぶことが出来る。元來あれだけ喧傳され、あれだけ重寶された光悅である。追隨者の少くはなかつたことも云ふまでも無いと共に、後代の偽作の無數であることも云ふまでもない。而も其の半面に當時の畫蹟の傳存の少いのを思ふと、さう多數の遺墨があるとしても思へないことは、世の周知する所であると共に、展觀當事者に於ても同様であつたことは、繪畫三點の出陳を見ても判る。自分がこの展觀によつて、今更にはつきり光悅大人の風貌を捕へ得た如く、世人の多くも亦同感したであらうことを思ふと、此の多數を出陳された當事者の意圖が那邊に在つたかを知つて其の苦心を多とする外は無い。少くとも光悅の展觀は光悅派展觀によ

つて初めて其の意義がある。(田中)

徳川美術館開館 同美術館は侯爵徳川義親氏の寄附による財団法人尾張徳川黎明會の事業の一として、同家傳來の數多の什寶美術品等を永久に保存し且つ一般及び研究者の觀覽に供せんとする目的のもとに設立せられ、去る十一月十日開館式を舉げた。

同館は鐵骨鐵筋混凝土造、日本城砦建築を加味せる異色ある近世式建築で、平家建の陳列館、事務所及び二階建の倉庫より成り、外觀設備共に小美術館としての美と完とを期したものである。

開館に際して、繪畫、陶磁、漆器、能衣裝、武器刀劍、文房具等が陳列せられた。就中牧谿筆虎圖、所翁筆雲龍圖、源氏初音の卷蒔繪調度品等が注目を引いたが、概して見るに、他に尙幾多の名品を藏する同館の最初の展觀としては甚だ物足らぬ感を禁じ得なかつた。斯界に對する今後の貢獻に期待すると共に、此種施設乏しき我邦にこの好箇の美術館の開設せられて、又一つを加へたるを喜ぶたい。(梅津)

美術研究所時報

十一月三十日美術懇話會は菊池容齋遺作竝に關係資料を展觀し、結城素明氏の講話を行つた。

尙十二月二日美術研究所に於ては右展觀を研究者の爲公開した。

寄贈圖書

十三松堂觀摩錄 正木直彦編
永好留眞 渡邊晨畝編
陶器大辭典卷三 小野賢一郎編

美術研究所時報

正木直彦氏
渡邊晨畝氏
小野賢一郎氏

鐵瓶圖錄 香取秀眞編

バジル・ホル・チエンバレン先生追悼記念錄 外一冊

The Noyes Collection of Japanese Drawings etc.

Andrea di Michelangiolo e Antonio Mini. I Disegni di Raffaello da Montelupo.

B. Berenson

思想 一六一

史迹と美術 六〇

星岡 六二

中國營造學社彙報 五ノ四

帝國圖書館報 二八ノ六

建築研究 七ノ一一

博物館研究 八ノ一一

美術評論 四ノ八

Bulletin of the Museum of Fine Arts Boston, Vol. XXXIII, No. 199.
Informations Mensuelles, Aout-Septembre.

香取秀眞氏

國際文化振興會

Library of Congress

國立北平圖書館館刊 八ノ三・五・六

美育 一一ノ一一

浮世繪藝術 四ノ一一

國際建築 一一ノ一一

四一